

楽器とその音楽の歴史をたずねて —— リコーダーとフルート ——

今日では教育楽器としてのイメージが強いリコーダーですが、18世紀までは様々な音楽で用いられた花形の木管楽器の1つでした。一方、17世紀からはフルートの人気も高まりますが、当時のフルートの多くは文字通り「木管」楽器でした。このワークショップでは、これら2つの楽器の演奏家をお招きし、その構造や奏法を解説しつつ18世紀までの楽曲を演奏することで、楽器の歴史と魅力に迫ります。実演では、通奏低音の担当としてチェンバロにも加わっていただきます。

演奏・解説



大塚 照道 Otsuka Terumichi

リコーダー

上野学園大学 リコーダー専門を卒業。リコーダーを比田井 裕、太田光子、山岡重治の各氏に、歴史的奏法と通奏低音を櫻井 茂、故 金子 浩、戸崎廣乃の各氏に師事。在学中は特待生として学費の免除を受ける。K. ブッケ、W. van. ハウヴェ、L. ホルシュらのマスタークラスを受講。「東京・春・音楽祭」「東京リコーダー音楽祭2020」「たかまつ国際古楽祭」等に出演。リコーダーアンサンブル《ラ・ルベルティーナ》メンバー。《コントラポント》《アントネッロ》《アンサンブル室町》《La Musica Collana》等の演奏会に参加。アルル音楽教室、東京リコーダー協会ほか各講師。

国枝 俊太郎 Kunieda Shuntaro

フルート

リコーダーを安井敬、フラウト・トラヴェルソを故 中村忠の各氏に師事。これまで東京リコーダー・オーケストラ、ルネサンスフルート・コンソート「ソフィオ・アルモニコ」のメンバーとして数々のコンサートに出演。2018年開催の「東京・春・音楽祭」において、ロシアの世界的ピアニスト、コンスタンチン・リフシツと共演する。現在はバロック室内楽を中心に、古楽器オーケストラによる数々の演奏会に出演するなど、幅広く活動している。バロックアンサンブル「クラングレーデ」「ムジカ・レセルヴァータ」メンバー。参加録音に、「ティールマン・スザート・ダンスリー（全曲）」（キングレコード）、「プロイセンの宮廷音楽～サンスーシ宮殿 フリードリヒ大王の居室にて～」（コジマ録音）など、多数。



石川 友香理 Ishikawa Yukari

チェンバロ

東京藝術大学チェンバロ専攻を卒業。その後文化庁新進芸術家海外研修員として渡仏し、リヨン国立音楽院にて国家演奏家ディプロマを取得。同音楽院の通奏低音・歌唱伴奏科を経て、日本へ帰国。現在はチェンバロ、オルガン奏者として活動している。フランスのバロック音楽に魅了され、更なる魅力発信に努めるべくフランス古楽グループ《On verra》を結成。他《La Musica Collana》メンバー。音楽教室「アイゼナハ音楽院」チェンバロ科講師。

企画・進行：赤塚 健太郎（文芸学部芸術学科教授）

2026

11.25 Wed 18:00-19:30

会場：成城大学7号館4階 007教室
(小田急線成城学園前駅中央改札北口徒歩4分)

ご参加について：

11月23日(月)までにイベントページの事前申請フォームよりお申込みください。

イベントページ ▶

<https://www.seijo.ac.jp/events/cvt4qu000001grvh.html>



※本ワークショップは「芸術学・美術史実習 b」の一環として実施されます。
※参加費無料・先着順（定員に達し次第、申込を締め切らせていただきます）
※未就学児の入場はご遠慮ください。

お問い合わせ：成城大学文芸学部 bungei55@seijo.jp